

日本 G.A.P. ニューズスター

No.3

1
0

0
1

目 次

“円盤の識別”の概要 その2	1
第10章 「聖書とUFO」	1
第11章 「形而上学、心靈学、宗教」	2
アダムスキの近況	5
クリスマスのメッセージ	5
C. A. ハニー氏のニューズレター	7
声 明	9
世界の変動	9
まじめな探求者のために	11
各国協力者からの情報	12
編集後記	17

前回に引続いてオ十三巻の真意を右伝えします。カッパ内の註は又保田によります。

『オ十章 聖書とUFO』

(註) この章では、古代において宇宙人が地球を訪問していた事実が新約聖書のいたるところに述べられており、重要な箇所を抜粋してそれに解説を加えています。或る牧師が研究して、聖書中には宇宙船・宇宙人に關する記事が三百五十カ所以上もある旨をアダムスキに報告したという事です。この場合の聖書というのは新約・旧約を合わせた意味だろうと私は思っています。

◎ 先ず、宇宙に多くの遊星が存在することを意味した箇所は「ヘブル人への手紙、オ一章オ三節」に見えている。同様の概念は右のオ十一章オ三節にもある。最も端的な表現として有名な言葉は「ヨハネによる福音書、オ十四章オ二節」の記事「わたしの父の家には住まいがたくせんある。もしなかったらならわたしはどう云っておいただらう。あなたのためにこの場所を用意して行くのだから」である。この意味は、もし人間が別の世界に行けるほどに進化して、主が述べたとおりに住まることができらば、主はそのとおりにしてくれるのだということをはっきり示すものである。このことは圓章オ三節にも示されている。

◎ イエスは他の進化した遊星から霊魂のまよふやっ来て来て、この地球で生まれかわった人である。これは地球人の霊的向上を援助するために来賓して来たのであって、宇宙人のなかにはイエスのように霊魂のまよふで来て地球として生まれかわる人もあれば、肉体のまよふ宇宙船に乗ってまよふ人もある。このことは「ヨハネによる福音書、オ一章オ二三節」

にも示されている。

◎ この地球では古代に右のような宇宙人たちが地球人のありだに混って住んでいたけれども、一般人はこの事実を知らなかった。しかしこれに關しては「ヘブル人への手紙、オ十三章オ二節」の「旅人をもてなす」ことを忘れてはならない。このようにして、ある人々は気づかぬいで使いたちをもてなした」という有名な二節がその意味を表わしている。現代でも船どの人が気づかずにこの「使いたち」すなわち宇宙人に路とで合っている。要するに聖書の歴史はくり返されているのである。

◎ 円盤が母船を離れる比喩の完全な描寫が「イザヤ書、オ十六章オ八節」に見えている。しかし古代の語法は現代のそれと異なるために、母船を「雲」、円盤を「ハトク」などにとえてある。「エゼキエル書、オ一章」は円盤目撃報告としての驚くべき正確な物語である。ただし、エゼキエルという人は文章の途中、急に飛躍して別な事を挿入するクセがあったために文脈がはなはだ錯綜している。また古代人は方角を表現する適當な言葉をもたなかったために「四つの礎」と四つの「礎」という表現法によって「丸くあちゆる方向を圍っている」ことを表わしている。

(註) エゼキエル書オ一章についてはかなり詳細な解説が述べてあります。特にエゼキエルは三個の着陸ギヤをもつ円盤に言及し、「ドーム」の周圍の高リリングや四個の支柱、底部の着陸球のことまで述べている。もちろん彼はこれらの空飛ぶ機械や内部の人間をすべて神や天使とみなしたのである。

◎ 予言者エレミヤは「エレミヤ書、オ四章オ十三節」で母船を「雲のように見える戦車」と記している。

◎ 「出エジプト記、オ十三章オ二十一節」には、イスラエルの民がエジプト人の部隊によって追跡されたとき、夜は「火の柱」で、昼は「雲の

柱が建てられた言が盛べてあるが、これも宇宙概である。また石のオ十三章とオ十四章に用いられている「主」という言葉は宇宙人のことを表わすものである。

◎「列王紀下、オ三章オ十節」に出で来る「神の入りヤ」は、この世界に生きていた宇宙人の一人であった。彼の神祕的行動は現代の謎の失踪事件の典型である。

◎「モーセはしばしば火の球または光る雲から語りかける」人物とまじわった。「出エジプト記、オ三十三章オ九節、オ十節」ではすべての人々がこの事件を目撃したことを示している。宇宙人は主として地球人が苦難におちいったときに「コンタク」を行なっていることは聖書全体を通じて判明することである。右と同様の事件が「ルカによる福音書、オ九章オ三十四―五節」に述べてある。

◎「使徒行伝、オ一章オ九節」のキリストの昇天の光景は、彼が肉体の「主」雲に迎えられてその姿が見えなくなった「すなわち宇宙船で運ばれた」と意味している。

◎「國家記(和訳版一九七〇年)の記述」によると、地球人の善徳は上空を覆っていた雲が滅び、人間が初めて宇宙の望みを見たときに「驚かぬ始めた」という個所は「創世記」に見られる。すなわち人間が望み見たことに因する聖書中の最初の説明は「創世記、オ十五章オ一節」にアブラム(アブラハム)が天を仰いで星を数えるようにと命じられる個所である。雲がいつ去ったのかはよくわからないが、この雲の水分子がノアの洪水を起し、その後空を澄んで、ノアとアブラハムの時代のあいだのいつ頃かに雲々が見られた。かくて恐ろしい宇宙線が地上に降りそそぎ、人類の生命の期間は急速に縮まった。ノアからアブラハムまでは十代の期間があり、その間にノアの九百五十才からアブラハムの

百七十五才に減少したのである。

◎「イエスの母マリヤ、さらにエリヤヤ、エノクなども生まれ、主は宇宙船で別な遊星に連れてゆかれた人たちであった。」

◎「いわゆる十二使徒は、この世界でイエスを勧めるために別な遊星から来て地球で生まれかわった人々である。しかし彼らは前世の記憶の一部かまたは全部を失っていたと思われる。」

(註) 以上の他に古代における宇宙船と関連する聖書中の記事を多数引用して、従来の聖書の解釈が全く誤っていたこと、聖書者たちは聖書中の古代の事件を通俗化していたこと、われわれはモ、ト聖書を正しく理解して遊星人の存在に気づき、イエスの言葉を正しく理解し、純粋な生活を送るべきこと、などをアダムスキは強調しています(オオ十一一章「形而上学、神学、宗教」)

(註) この章は「主観、神聖主義、神聖学、哲學、形而上学などの各語を定義し、現代はこれらの語が全く誤用されていゝことを述べています。重要な個所なので、概略では別紙本文の意を述べます(オオ十二一章「形而上学、神学、宗教」)

「以上述べた真の意味に比較して、母と現代の神聖主義は神祕的なものや形而上学などの真の科學の誤用以外の何物でもないので、かすくわかるだろう。人間は一夜でこれらの科學の理解力を得ることはできない。その知識を得るためには生涯の研究と生活とを必要とするのである。ほんとうの探求者は決して容易を求めることなく、靜かに生活し、學んでいることと探求し、心開する。このような探求者は自ら見えぬ原因と

目に見える形態とのあいだの分離を認めようとは決してしない。彼らは物質的形態を伴わなければならないというよりも認めない。すなわち、外形上の融合が統一体を可能にするということを認めるのである。」

(註) 傳是は私がつけたものです。右の意味は深遠ですが、要するにわれわれは外形の存在を認識してその愛欲を知るべきであって、外形なきものをやみに神視してはならない、という意味になるようです。次いでアダムスキは種々の予言類やメッセーシ類(需要通信のもの)に言及して大要次のように警告を發してします)

◎文字夜、自動書記、恍惚状態などによる通信の受信は、すべて真実の宇宙人から来るものではない。これらに信するに足りないものである。

◎地球を統制する計画で宇宙人が大量に着陸するという約束が、いわゆる宇宙人情報として流れ、その實現の際は個人的に自分か世界の支配者になるように選ばれていると公言する人があるが、これは大ウソである。そんなことは絶対にない。

◎或る悲劇的な変動が発生するという宇宙人警告があり、岡波教を高めたくを宇宙船に乗せて救ってやるという約束もあるが、これも大ウソの情報である。真実の宇宙人はそんなことは絶対にしない。

◎宇宙人は地球人のなかの選ばれた少数の人々を救うために来ているのではない。彼らは地球人の宇宙にたいする愛情的、科学的、哲学的知識を傳達させるのを援助するために来ているのである。

◎文字夜、自動書記、恍惚状態などの方法によって他の遊星の人間や神などから通信を受信したと信じている本人に罪はない。かかる体験は潜在意識クによって生み出されるもので、それは睡眠中に見る夢に比較できるものである。(註) これに關して重要な個所を以下記之のまゝ掲げます)

「人間の心は複雑な、自然の電子機械であって、自己誘導の恍惚状態は潜在意識にたいする開いたドアとなる。この半催眠状態においては、潜在意識が哲學、UFOなどの世界的事件の秘密にたいして真先に充分

な言葉を始めると思われるのである。このいわゆる通信の受信者が目覚めたとき、本人はどこの他の力か受信された情報の要因であると確信する。本人は意識の夢と恍惚状態すなわち意識の夢とのあいだの類似受を記すのめではないのだ」

◎日常生活中心を通過する想念の多くは真実の宇宙の知識を含んでいることがある。これは真実のテレパシーであって、重要なものである。(註) 以下はテレパシーについての解説の要約です)

◎われわれはテレパシー能力を傳達させるために、心々を完全に理解する必要がある。想念波動のよき受信者となるためには、まず個性を完全に排除することができなければならない。

◎人間の心はスポンジのようなもので、やがて来る印象のすべてが浸み込むのである。心が常に習慣的に自己の個人的興味にのりつながられば、正確に想念を受付けることは不可能である。受信しようとする個人の個人的興味のすべてを完全に排除する必要がある。つまり、話し中であってはいけない。電話で二人が一方的に喋りまくっている場合は相手の言葉が聴きとれず、のと同様である。すなわち一般の地球人は心のかたて絶えず物事をあまりに考えすぎるのである。もっと心を静かな状態にすべきである。

◎わけもわからずに心を開放すると、かつて放たれた歴史の事件に關する分裂にちかた想念をキッシュすることがある。多くの恐ろしい通信やウソの約束などが受信されるのはこの理由である。

◎ゆえに真実の宇宙人は地球人にテレパシーだけでコンタクトを設計することはない。なぜなら、右の誤った通信と真実の宇宙人からの連絡とを見わける能力が地球人にはなく、そのために混乱が生じるからである。

◎ したがってテレパシーを自己体だけを決してあてにすることはでき
ない。(註) この理由は、恍惚状態などによって受信される低級なメン
セージ類も一種のテレパシーの分野に入るからで、このことは後掲のハ
ニエ氏の解説にも述べてあります)

◎ この世界には宇宙人をネマにした宗教団体が盛立したが、この態度
は誤まっている。彼ら宇宙人は神ではないので、崇拜されることを望ん
ではいない。

◎ 宇宙人に宗教はない。そして宗教というならば、[〃]至上なる英知[〃]
だけによって絶えず与えられる新しい理想と理解とをもって、[〃]自然[〃]
によって教えられるが人生がされる生活の科学である。

◎ 地球人は個人で考えようとして、既成概念を他から強いられて
それを容みにしてゐるだけである。(註) 以下は訳文のまま) 「人間
はたゞ自分だけ考えようとするばかりだ。自分の意見を自分自身だけのな
かへ閉じ込めたり、他人が自分の意見を批判するのを許したりしないで、
自分の思考を天地万物のなかへ没入させなければならぬ。誰もか自分
自身の由連の仕事をやらねばならぬのである」

以上で「田盤の訣別」中のオ一部を終ります。次いでオ三部へ入りま
すが、これは次回にまわします。オ三部は世界講演旅行記で、これによ
りますとアダムスキが各国でひどい迫害を受けたリデマをどばされたリ
した各種の事件の真相が述べられてありますが、かつて甚間に伝えられた報
導とは内容があまりにかけ離れているのに注目させられます。特に、ニ
のオ三部でアダムスキは、[〃]秘密結社[〃]の存在を強調してゐます。これは

アダムスキを社会的に葬り去って、一般大衆から田盤・宇宙人問題の興
味をさらすせよとする特殊な組織で、巨額の資金を投じて世界的にア
ミを張り、巧みにデマをどばしたり、ニセ宇宙人を装ってはツソの精緻
を流したりして真実のコンタクトマンを抹殺しようとする一種のスパイ
団であるものによつてです。このニセ宇宙人によつて仕立てられたコンタ
クトマンを通じてUFOの研究等に混乱を起すのが彼らの常套手段で、
日本ばかりでなく各国にも発生してあり、その著しいものとしては既手
からニエ・ジョーランドで起った、[〃]X氏事件[〃]、[〃]最近ドイツとオーストリ
アをかきまわした、[〃]ハート・ニールセン事件[〃]、[〃]シムミット事件[〃]、[〃]シムミット事件[〃](彼は一歩を人から五方ドルをまきあげたサギによつて
逮捕され、刑務所に入れられた)その他があります。いまこれら例にも
手落ちがあつたと云ふべくもないでしょうが、しかし私の考えるところ
では、やたらに運動資金を浪費するコンタクトマンは先づニセモノと見
て差支えないようです。真実の宇宙人たるものが、信する人の側の弱氣
をつかんで経済的困難をもたらすような手帳を与えたりするに思ひ
ないからで、地球人が金権主義による誤まった経済社会を造り上げて
しまったのは致し方ないとしても、現代の階級では[〃]社会のバランス
を保ち[〃]命の綱と頼つてゐる[〃]金を個人的に積蓄してトラブルをまぜ
しめようなど、云ひかえれば、自らでなく他からの作用によつて
個人間または社会的にバランスをくずすようなことをコンタクトマン
に行われしめるとすれば、それは元来でも特別タチの悪いほうで、せん
は者が宇宙空間から愛護に奉じられるとしても(全盛考えられぬことです
が)おぼろげな難くない兄弟です。「しすれ救つてやるから」という約束
などは無視してかかるほうか、賢明だと私は思います。やはり自分の頭で
考えて考え抜くといつた態度が重要なようです。

アダムスキの近況

さて、アダムスキの「田舎の訣別」の原稿が書かれ始めたのは一九六〇年のことで、この書の発行後は状況にかかりの変化がみられます。先ず彼は一九六一年五月に、バロマーの財産一切を売り払ったアリス・K・ウエルズ夫人と共にケアリフォーニア州の政庁へ移動しました。これは経済的準備によるもので、フラザーの指合ではないといつことで、現在の住居は富庶であり、これからの益々増える場所は未定と信じています。かゝるもメキシコへ行くようになる模様で、そのことは後掲のメキシコの協力者マリヤ・クリスティーナ・デルニダ女史からの書簡で明らかです。しかしアダムスキの提唱したG・A・P運動はその後も拡大し、現在はオセア州に協力者がいて、アダムスキの言動を国内に伝えたり情報と交換したりして活躍しています。一九六二年よりアダムスキは直接ニニースレーターを各国協力者に託すことばかりで、そのかわりに宇宙科学の研究所の新会館を興いたこと、宇宙人とのコンタクトは今後も続けることになる模様です。それによって各国協力者にアダムスキの情報を伝える仕事は米国のC・A・ハニー氏が代行することになり、彼が代理人として新たに「宇宙科学ニニースレーター」なるものを発行することになったと、すでにそのオ一号(一九六二年一月号)が私の手元に届いています。これは八頁からなる大判のパンフレットで、アダムスキ自身の記述はすべてこれに収録してあって、私に託しては要に貴重で情報源でありますので、今固からはこのハニー氏のニニースレーターの主要な記事とを敢て取り上げて紹介することに致します。

二のC・A・ハニー氏はまた老く、かつてアダムスキと共に講演旅行などを共にした同族で、田舎に束縛されたこともあると信じていますが、

人物について詳細なことはわかりませんが、京都で私が会ったバンスン氏はハニー氏を知っているといふことでした。かくわしいことは聞き渡らしてしまいました。しかしハニー氏はもとアイダホ州のボイスという町の工場で機械技師として働いていた。同時に、レイニア山脈と接する九個の田舎を巡視して世界的に有名になった例のケネス・アーノルド氏の自家用飛行機を修理したことがあり、そのときまじめなアーノルド氏から体験談を聞かされたのが田舎に興味をもつようになった始まりだといふこと。その直ではあつた。とした経歴をもつ人です。このハニー氏のニニースレーターを紹介するまえに、アダムスキから直接に各国協力者へ送られたクリスマス・メッセージの全文を次に掲げることにして置きます。

クリスマス・メッセージ

再び臨むことなくまた過ぎ逝く年としてこの年に、あなたが出が承して下さった言葉にたいして衷心より敬意を用ひしやします。私たちが信じて居ることに世界の責任を果すのに、親しくは来たる者が万人の心のなかにキリストのあの謙虚な誕まが感じ起されて始まらんことを。その日が万人の最大の幸福を成しその平和と人損の親善とをもたらさんことを。更に万人に宇宙の父の慈悲が手をはらんことを。来たる年、私たちがよりよき使ひたらんがために、貴族と謙遜と権れみとをもちていびますさんことを。

現代のこの最も重んぶ時期に創造者に向かつてあはれたがた、か承された忠実にたいして、フラザースにかわつて私個人から感謝の意を表するものです。今まさに夜明けを告げようとするその年は、あいまいな世を

十二の月間に私たちを養育して下さる忍耐にたいして綴るでしよう。その忍耐方は、宇宙計画の成行きのために私たちの住むこの遊星が他の

の姉妹遊星群と同様にその計画と一体になるべきであることを確信に立証して行きます。神は不可思議な方法でそのこの宇宙の遊星を養育しようとして行きます。私たちが云えることは、この地獄の主がそのア・ゴでただ私たちがむさぼり食わんがために襲いかかった如く、私たちは現代の最もわけのわからぬ時期の一つを通して来たという事実です。しかし忠愛と憐れみにより、個人的な良心を犠牲にして私たちがその試験によく耐えてきました。しかしこれが終ったのでありません。その数は再び試みるかも知れないからです。その最初の試みとしてそれは三名の忠実な協力者を食ってしまった(註。ニセ宇宙人を信じてG・A・Pから離れた人たちの意味します)。これはまだないといなる断固たる態度により、また忠実なるもののみを求め、それによって私たちの努力に混乱を導き入れないようにして、その地獄の主はこれ以上誰も食われないうにしようではありませんが、私たちがへじのように賢明に、ハトのようにおだやかでありたいものです。そうすれば全能の神は私たちと共に在るでしょう。以上が皆さんへの私のクリスマス・メッセージです。

遊星話II

私はロサンゼルスへの旅をもう終ったところですが、別な太陽系から来た宇宙人だと称する二人の男が私に近づいて来て、私たちの活動を讃え、彼らの本部へ一緒に来ないかと誘いかけました。しかし私は「行くな」という何かの音が響いたのを聞きました。その夜私はこの太陽系内の真実の宇宙人と発見しました。そして次の言葉を

知ったのでした。すなわち前記の二人は宇宙人では無いこと。しかし彼らは宇宙活動のすべてに精通していることなどです。もし私がついて行つたならば彼らは私を誘同にかりてその結果私は無理に善悪に善悪をさせられ、そのために私はかりてた。この計画のすべては善悪を失はつたことにはたかもしりません。察するところ私が主の目標になつて行かうのですが、そのゆえに彼らは私たちが計画目標に努力が傾注されたいうちには私を注意せしめる必要があるので、ルーシーが私のことを離れたいと善断して以来、ありとあらゆるデマの音は私のところへ来ています。そんな手紙の類と私にはフズカサかへ受けはつきよとたか、一面だけは保存して置きます。その手紙には、もし私がルーシーを一人にさせたいならば、彼らは私の魂を盗取してしまふとあります。どうやらこれはルーシーの友へ向かうようです。創造主の目的に導いて来るらじうかと私はルーシー宛に手紙を書いたところですが、さうしてルーシーはこのことには明確がなかつたのでしよう。しかし私は彼女によつて彼女がサイレンス・グループに絶望の活動場所を提示したために、彼らは巧みにそれを利用して置きます。それで私があなたに注意したいのは、二のうな運命があなたに落ちるなれどは言えないといつことですが、なせなら彼らはさうと私たちの各グループも破壊できることでは、どこでもそれをするかも知れないからです。彼らは徹底的にやるでしょう。彼らがやめざるを得なくなるような方法は一つのみあります。それはルーシーが帰って来ることです。どうすれば、デマや脅迫のドアは閉じ、これらでしよう。今のところ、これは望みないように見えます。もし事態が早急に変化しないならば、私は別な手段を講ずるべきを得なくてはならないと云えれば、他の難よりも私を傷つけることであつても。しかし私はこの混乱を続けさせはしないつもりです。したがって如何なるデマに基

ついで如何なる行動をとられようとも、そのまえにまず私宛に手紙を下さり。私が手持ちしている、政事の出世ない例の手紙にたいして、とにかく私は何らかの援助を得る必要があるのです。

一九六一年十一月二十四日

ジョージ・アダムスキ

各新聞の巻頭

C. A. ハニー氏のニニエズレター

次にC. A. ハニー氏のニニエズレターについて説明しましょう。この中一頁には私宛が掲載されており、それによりまして、ハニー氏がニニエズレター宛の私宛の手紙を返すつもりを理由として、目下世界中に流行している「宇宙空間のオセージン様による混乱を併発すること、アダムスキの体質にあくまで不適合的だコンタクトによるもので、実証的な現実的な方法によって、^{（？）}宇宙人の存在を認識せしめるようにしてきた彼の努力にたいして大いに援助する意欲があること、彼はアラザズにたいして新たに高度の念でもつねにヒトなどが感得てあり、また一コンタクトマンがサギ程により遠隔された事象をあげて、アダムスキがかかるいかがわしい^{（？）}事象にたいしては、^{（？）}二とを認識してあります。これについてハニー氏は次のように述べています。「^{（？）}私宛にたいしては正レリコンタクトをした人としてはいく人を知っています。しかしレニア氏を尊敬することは不適当であらう。宇宙空間のオセージン様とするよう人は自らの首を締めるようにはないのである」このサギ男とはシニミットとのことであって、それはウィーンの協力者ドラ・バワエル女史から私宛の書簡で明らかになりま

した。

オニ氏は哲学の類になつていて、ニニエは広大な宇宙を一体何者か作つたのかという問題から、無神論、汎神論、有神論の三つをとりあげて検討し、結局この三つはみな同じものであると述べて、これらの論議で宇宙や物質の起源を解明することはできないと、最後に次のように結論づけています。

「たゞわれわれは次の事を知っているだけである。すなわち、あらゆる現象、あらゆる科学上の法則、物理学・化学上の法則の背後には一つの因が存在するといふ事である。あらゆる結果はその因に何かの^{（？）}原因をもっている。原因なくして結果は起り得ない。われわれは万物のための、一つの最初の因を認めねばならない。この最初の因の性質や起源は人間にはわかりないのである」この論議は未完で、次ぎに続きます。

オニ氏は科学の類で、ニニエはアダムスキが早くから述べていた宇宙の奥底がロケット類によって次々と確認され、事実が判明してあります。特に興味があるのは、アダムスキのオニ君で、太陽が陽子の放射線を放射し、それが陰電荷を帯びた三個のアストロイド帯に吸引されて、最遠距離の遊星にも地球と同様の熱と光を放射されるといふ論議がこれであるのにたいして（この書の原稿は一九六〇年七月二十四日に出版に渡された）、エナリクス・ハースト・ニニエズパイパーズの科学部長（ら・ラル）が一九六一年八月二十日付のロサンゼルス・エグザマイナー紙に次のような記事を載せていることである。

「陽子は水素の原子核である。各陽子は陽電荷を帯びた粒状で、いわゆる太陽風となつて太陽から飛出るのである……この微粒子は地球の大気の最上層を変化させる」そしてその証拠として最近のロケットの新発見類をラルは列記しているといふことである。

オロスは、アダムスキがハニー氏にG・A・Pの仕事をやすり渡した
 ニと云へた多明文と「世界の変動」と題する論文が載っています。が、
 書き下すから両方とも全訳をあとで掲げましょう。

オロスはオロスは質疑を全部で七つの質問にたいしてハニー
 氏が答へた簡答を返してあり、これはかなり重要なもので、ぜひ全訳を載せ
 たいのですが、残念ながら時間的余裕がありません。ただ主なものの概
 要だけを記しますと、まず「アダムスキはなぜ彼のオロシ者に、田盤の訣
 別々という題をつけたのか。これは田盤と縁が切れたことを意味するの
 か」という質問にたいして、ハニー氏は、どうしては、宇宙人との
 コンタクトは続けるが、別な研究活動に入るために、一応田盤そのもの
 のことからは身を引いたのだと述べ、地球には宇宙人に関する重要通信や
 家紋団体が設立したためにブラザー側も計画を変更せざるを得なくなり、
 現在は重要情報は引き揚げてつのである。今後にはコンタクト・ケースや自撃
 機等はは減少するであろうが、レカレブラザーたちの着陸は依然として
 実行されてあり、ますます多くのブラザーが地球人のあいだに混って
 生活しながら地球人をいかに援助しているの、であると説明しています。
 また、「心電現象を研究していったんがアダムスキの書き残したから急
 遽にアダムスキが改変されたのはどういわけか」という問いにたい
 しては、ハニー氏が次のように答えています。

「次の二、三の事柄が理解されるならば、われわれと心電現象とのあ
 りたい何らの関係はありません。まず、われわれは高度の電線と重要通
 信とを相手にするものではない。一夜にして神との電文を体験したと称
 するものがあつた人たちがいることを残念に思うものですが、高度の電線
 や重要通信は神と電線と結びつけることはしません。宇宙人は如
 何なる通信にも電線や重要通信的手段を用いることはしません。テレパ

シーは重要通信の一部ではなく、重要通信がテレパシーの一部なので、
 この意味を次のように説明してみましよう。ケアリフアニーにまきま
 た人のすべてはアメリカ人ですが、アメリカ人のすべてがケアリフア
 ニア人であるとは限りません」次いで、テレパシーには各種類あるとい
 う三種類は全く地上的な性質を帯びた理念の受信であつて、彼に立たぬも
 のであり、あとの三種類が宇宙的な現象のテレパシーで、これを発達さ
 せる必要があるのであつて「詳細はアダムスキ著「精神感応」にあるこ
 としていきます。次に重要質問として「改変機または変動が起つた場合
 に宇宙人はわれわれを救うのか」といってハニー氏は次のように答へ
 ています。

「そんなことはありません。何らかの救助がほこられるならばそれは見舞
 の法則にしたがつたことにはなりません。レカレブラザーズはこの
 点においては自然の法則にしたがつたのです。あらゆる大層が正しき者
 も不正な者にも等しく輝くように、彼らももれ救うとすれば選ばれた少
 数の人だけではなく、民族、信念、皮膚の色などにかかわらず万人に及
 ぶ筈です。そして各遊星や惑星は自分、自分の内面を解決すべき運命を
 もっている。特定の選ばれた人だけを救ふことにすれば、この自然
 の法則を破ることにするのであると云っています。ただブラザーズが行
 なっている援助の一つとしては汚染した大気を浄化させることがあり、
 これはいわゆる「緑の地球」として知られている物によつて行なわれ
 るという事です。それからみますと、緑の地球は田盤ではなく、
 放射線を除去する装置であるようにです。その他にも有酸素は重要通信の
 ありますが、二三では省略致します。

次にオロシに掲載されている多明文と論文の全訳をかかげましょう。

御意を以て拙著科書を伝えるための別な兼任の分野に入りまして私、
ジョージ・アダムスキは、私のこれまでの仕事をC・A・ハニー氏にゆ
ずりました。ハニー氏は米國で私の代理人になりまふ。私が或る場所に
滞在したならば、ときどき彼に情報を与えますので、それによって彼は
私の諸仕事に精通していろいろ々に同心を持ち続けさせることができます
す。

私は宇宙の研究者によつて新しい任務が与えられ、またC・A・ハニ
氏に私の仕事の最初の部分をゆずり渡すことについて、ブラザーズの承認
を得ました。このことは、このまひしい時代において如何なる不測の事
件が起るうともそれだいたひして警戒するためには尋常自由が私に与えら
れたことになりまふ。私はこれによつて、宇宙の諸法則々に親しく接近
してゆくことができ、そしてその諸法則に關して知識を求めん人々に伝
へることができます。私の宇宙的な運命を遂行しようと思ふ人々を導
くために、またあるべき時代に多くの人々が必要となるでしょう。

共にこの任務を援助しようと思はれる人々のすべてがハニー氏と一緒
にこの能力のあらゆる限りを發揮して協力されることを切望します。彼は
信頼にたよむべき人物であり、あなたもさうであると思ひます。
あなたに御書出して常に私と連絡することをできます。

一九六二年八月二十四日

ジョージ・アダムスキ

岡澤有行位

ジョージ・アダムスキ

今や世界には多くの變動が起りつつあります。これは近年同様で
しょう。これは地球及び太陽系自身すらが過渡期にゐるためです。地球
物理學的な發生だけでなく、社会自体にも多くの變動が發生するでし
ょう。社会的に發生する諸變動種々様々のものとなるでしょう。

人間が求める種々な世界の子孫とは過渡期が終つて實現し
ないでしょう。最もよく知られてゐる人々は地球がその變動を受け
つたことを知つてしまふが、同じ事が太陽系にも發生してゐる。こと
までは知つてゐません。この太陽系内の全宇宙はその影響を受けるでし
ょう。遊星のなかには他の遊星よりもはるかに巨大な影響を受けるもの
があります。地球は太陽系を受ける遊星盤の一つです。それは五五五をして
立つてゐる人間にたとえてよいでしょう。血液は體を循環し、肉體内の
全器官はねじれるかもしれません。あらゆる分は新しい姿勢を求めら
ようになるでしょう。地球がそのとおりなのです。

地球は一定の姿にまづ體價な變化を経ようとしてゐます。この新しい
姿勢に向つて地球が動くにつれて、地球内部のあらゆる元素も同じ目的
に向つてそのポジションを変えてゆきます。人間もこの同じ無機物や元
素で成り立つてゐるので、やはり影響を受けるでしょう。人間が元氣や
大氣中の微妙な變化に感応するうちに、また諸變化にも感応すること
でしょう。自然が發展段階を経てゐる限り種々の不安感が人間の心のな
かに広がるでしょう。地球の變化が終つたとき人間は不安感が終ること
がわかるでしょう。

以上が、未來に起ると言われる事件について多くの要なる予言類が行
なれる理由です。二十五億の人間が、發生するだらうと思はれてゐる物

天しめな探求者のために

アダムスキの最新の著「宇宙哲学」は彼の偉大な書の一つです。精神感動と共にそれは哲学上のデキストブックになるもので、目下つくられつつある宇宙哲学の各研究団体によって用いられるようになるでしょう。

「宇宙哲学」はいつまでも語りをもつて所有される書です。全部が九章から成っています。その主なものは次の通りです。「知覚と概念」「意識とは何か」「肉体、心、意識」「表面意識と潜在意識」「信念」「生まれかわる二重」「感情のパラメータ」「自由意志とは何ぞい」「弛緩」「古代の知恵」「現代の進化」「過去の文明」その他です。

この書は書店にはありません。宇宙の兄弟に買って取られたら、科学的な道に沿って向上するのを望むべき最初の研究家のための書です。宗教・政治には関係なく、地球人の生活にたいする指導書というべきものです。

アダムスキはこの書について次のように云っています。「これは自己啓蒙の指導書すなわち一種の個人用バイブルです。正しく応用されるならば有益になるはずで、それによって読者は知識の命脈を延長し続けるのに他の何物も必要はなくなるとして、実際、より深い知識はなおも求められるべきですが、しかし確固たる土台がなければ成り立たないことはできません。その土台を私はこの書によってお供わらうしたいと思います。この書に書かれている知識にたいして読者はまったく何指以上のほかに入るべき価値を見出さなければなりません。」

二ニースレターオ八頁には雑報の他に「コンタクト事件を見分ける法」

と題する記事がハニー氏の名で載っていますので全訳を次に掲げます。

コンタクト事件に關して誰か真実のコンタクトマンで、誰かニセモノであるかという疑問が多数の人から私宛に(ハニー宛に)来ています。私がこの回答をできた理由は、この二ニースレターの社説で述べられてあります。ジョージ・アダムスキは私の支持する唯一のコンタクトマンです。このことは他のコンタクトマンのすべてがイカサマ師だということを感じ味するものではありません。しかし私は多くのコンタクトマンがイカサマ師であるという直接の証拠をみています。宇宙人は私たちに誰か真実のコンタクトマンで誰かどうでもないかを語ってくれています。

人々のなかにはコンタクトしたと称する人もありますが、本人の陳述が真実かどうかではないかを知る方法を私は知っていません。たとえば本人が真実のコンタクトマンであったとしても、確証を入手しないことには私に誰を支持しません。ただ宇宙人の許可を得ず私が真実に云えることは、真実のコンタクトは宇宙人との真実なコンタクトではないということだけです。それは本人以外には誰にどうも意味のない精神的な体験です。このような体験は発生していても宇宙人とのコンタクトではありません。いわゆる宇宙人からのメッセージと称されるものの内容を判断する方法があります。もしそれが分裂、非難、害意、予言、個人的報酬の約束、恐怖、不安は感じ、不満、などを含んでいて、宇宙の法則にしたがってなければ、それは真実の宇宙人から来たものではないので、監視すべきです。一方、コンタクトマンからは腐敗が宇宙の法則にしたがって、自然の法則と一致して、前記の事項を含んでおらず、自己の内に調和の感じを与えるものであるならば、その価値を認めて、ためになるという信念のもとに判断をすべきです。

各国協力者からの情報

ハニー氏のニューヨークズレターの紹介はこれで二所おわりとしまして、次に一九六二年十一月、十二月には私宛に(スウェーデン)届いた世界新聞からのニューヨーク中、まほものを掲げます。

⑥メキシコ マリア・クリスティーナ・デ・ルニガ女史

この人からはしばらく連絡がと絶えていました。十一月二十六日付でスウェーデンに通信があり、それによりまずと家内には病人があったとのことで、二たついていたといふことでした。しかしアダムスキのG・A・Pには以前にもまして精進をもうけている旨が記してあります。またアダムスキがメキシコに居る様子のレトリックについて次のように述べています。「アダムスキ氏はたぶんメキシコに住むように思っています。もっともまだ確かなことはわかりませんが。私とも密接な関係はアダムスキ氏と非常に被愛してしますので、彼がメキシコに住むのならば、できる限りのこととして彼とアリスとの面会を見るつもりです。アリスはとも素的は婦人で、アダムスキのために大なる奉仕をつくってきた人です」
又アダムスキはメキシコを非常に好んでいらしく、これまでに何度もメキシコを訪れており、クリスマスは文藝マリアの家で過ごすことになつており、今度のクリスマスもそへ行く予定になつていられると聞いておりました。その他に、マリアは三年前に起きた或る不意な事件を詳述して見ます。すなわちテレパシーによつてマリアと語り合つた二人の紳士に因る事です。文藝マリアはこれまでに気がかなり二人の宇宙人に会つたことがアダムスキにわかつていられると聞いています。このニューヨークズレターと共に私宛の私信が添えてあり、それはまわめて力強い言葉

で述べられた激動の語りました。

⑦デンマーク ハンス・ピーターセン大尉

ピーターセン大尉は政界ミフアのG・A・P活動家で、現在スカンディナヴィアUFO研究会を主宰し、二十二年の国文十六カ所と連絡を執らせている旨が、十二月十日付のニューヨークズレターに述べられています。彼は近頃内に米国へ派遣され、約二月間をそこで過ごすの間にアダムスキに会う機会をねらっているといふことですが、デンマークを軍の若き有能な人材です。

⑧フランス シュヴァン・ソニーニエ女史

ソニーニエ女史は日々に稀少な感傷をもち、私にたゞしてはこれまでにずいぶん私信を寄せられました。彼女のニューヨークズレターはいつも流麗なフランス語で書かれていて、英語はあまり使われていません。英語はどれも上手のようですが、この二回はメキシコのマリアも云つていいます。やはり言語というものがテレパシー以前の困難であることを痛感する次第です。シュヴァン女史は十二月五日付でははやくもカレンジャーを返つてくれて、その手紙にはG・A・Pのことに關してその後どうなったかというふうなことが書いてありました。アダムスキの欧州諸国旅行のときは親しく彼の世話をやいたことがあり、また宛先はクリシニナムルプイーの講演も聞いたといふことでした。パリから発行されている有名な雑誌 *Le Monde et la Vie* (世界と生活) を毎月送つてくれます。彼女は日本のキモノを着用しているようで、かわりに私はキモノに關する日本の道草と文獻を送つたことがあります。四十九才の知性高い婦人です。

⑨瀛州 ロイ・アドパール・ラッセル夫妻

ラッセル夫妻からは十月三十一日付で彼らの出しているレター・ト

○二ニージーランド フレッド・ランド・フェイス・デクソン夫妻

デクソン夫妻はA・P協力の者として随分活躍して来た人で、その奥は心から敬意を蒙るものですが、昨年夏頃からX氏事件に関するものを紹介してその主役者になったために、世界のG・A・P協力者間で俄然論議の的となつてしました。この事件について詳細を述べればそれだけで五、六頁を要しますので、二ここでは概略を述べたい。

1. 数年前よりデイマールに住むデクソン夫妻の親友であるX氏の家に不思議な手紙が舞ひ込むようになった。その文面はこの地球以外から人間が来ていることを告げるもので、手紙の主がその一人であることを記していた。しかしその事は秘蔵にされ、デクソン氏以外の誰も知らなかった。

2. 一九二一年の夏、この謎の人物はX氏に指差を送り、全世界の四大陸探検隊が一定の日時に一斉に発進すれば、デレパシーによりリーダーたちに適當な指差を与える言を伝えたので、フレッドが各国に搬送をばしてそのことを依頼した。しかし各国では疑問をもつ人がかなりいたし、指令通りに即命をしたが皆向の死に至り得られなかった。

3. しかしこの宇宙人らしき者はその後もX氏宛にメッセージを送り続け、自分たちを信するようにと主張し続けた。フレッドはこれを信じて重視し、その後モネースレーターとこの事案が真実であることを断言続けたために、各国協力者間でも同感となり、一休彼はアダムスキの支持者なのかそれともX氏の代弁者なのかという者が高まり、この二つ疑問の人物となつてきた。

ところでフレッドから来た三ノズレーターオ十七号(十一月号)によりすると、依然としてX氏事件を重視した記事が埋められています

が、そのなかで見逃がし得ないのは、一九二一年十一月十五日にX氏が受けとった手紙オ八号及びオ九号の内容を掲載していることです。これも宇宙人と名乗る人物からの一連の手紙の一部なのですが、そのオ八号によりすると、次のようなことが記されています。

「われわれはあなたたちの太陽系から来たものではなく、地球人が射手座と呼んでいる星の近くの惑星から来た者です。地球の衛星である月には如何なる種類の生命も存在しません。そこには空気も水もありません。……あなたたちの神の上空で私たちが描いて見たVという字は、私たちが訪問している事案(のこす)の意味です。後略」

このVサインは九月十四日及七時二十分頃にフレッドの友人フェイス・アイアンの二人がデイマール上空で目撃したと仰る事です。またX氏の家に二人の見知らぬ人物が現れて、彼らが手紙の主であることはいのめかした事案であるとフレッドは述べた。……その他に多くの難題をフレッドは受け、これが真実の宇宙人であることは間違いないと強調してはいますが、このX氏事件に關してアダムスキは断言する態度で、これがニセ宇宙人の仕事であることを見出し、九月十八日付のフレッド宛の手紙には次のように述べています。

「……宇宙人はX氏の依頼を支持していません。そのことはX氏が悪いという意味ではなく、何者かに騙されたことを意味します。私でさえも事情をもう少しよく知らなかつたら、やはり騙されたかもしれませぬ……」をして、今やサイレンス・グループの活動がクライマックスに近くなつたこと、われわれはニセ宇宙人に極力警戒しなければならぬことなどをアダムスキはつけ加えています。また、アダムスキが八月二十五日付で私宛に送った私信のなかにも「X氏については、それもまた真実のコンタクともはありませぬ」とありました。

……

私個人としてはやはり文氏を支持する気持は起りません。CBAのケイスによく似ていますが、これはやはりサイレンス・グループの巧みと主としてかと思えず、どうも不気味なものを感ぜさせられます。文氏のコンタクトした宇宙人なるものも同じく大変危険な時のカル・P救出討議を画して下さるようですが、これを聞けば又振替わかりでしょう。才一、月には空気が水も無いという断言がのしかねたことで、これは地球のロケット類による調査で幾時は同じに多々の空気が水があるらしいといふことが科学上大のびらに認められてきたことから考えても不合理的であらうと思われましたが、米国の惑星アマチュア天体観測家は昨年の惑星夜、望遠鏡で月面を十数時間も眺め続けた結果、不惑感に充ちる物体が何面とを移動するのを目撃したという記事を日本の天文雑誌が発表している記事を読んだことがあります。その他最新の科学上の新発見なども幾つも、やはり「月は空気が無い」としか思われません。空気が水も無いというのは五、六十年前の古典天文学の説です。それを巧みに利用したと云うのは、何れの評論があるような気がします。夜空に光る物でV字を描くくまりのことは最近の直進した無線探検の複製飛行機を用いて簡単にやれることです。そのようなあやふやな目撃体験よりも今のところはコンタクトマンのもつ思想、哲学といったものの内容を重視するほうがより合理的のように思われます。当のフレッド自身は必ずしもアダムスキを攻撃し始めたわけではなく、両者を客観的に観察して、とにかく地球人類の科学的調査の結果を忍耐強く待つことにしようという意味のことを云っています。内心では文氏を支持に傾いていることは明らかで、世界G・A・Pの連絡網からかなり軌道をはずれてきたと云ってよいでしょう。このような協力者は他にも数名あり、そのことをアダムスキは「地獄の主」がそのアゴで食ってしまったと表現したわけですが、

◎ベルギー

メイ・モーレー女史

アントワープに住む者の人から十一月十五日付で始めてニューズレターが到着しましたので、読んだのみならず、最近ベルギーG・A・Pの主宰者になったので、宣教師という様状と自己紹介でした。コンタクトのピーター・セン大尉、スイスのルウ・ツィンシターク女史とビロ知事だといふことで、文面により「数年前はベルギーに回遊に決まらなつ者は一人くらいのものであらうと思つていました。もう一人は池にも興味をもつ人々がいたことを知り、その高層にのりて居るのを見た」とありますので、まだあまり活発な活動は行なわれてはいないようです。

以上の他に世界G・A・Pの協力者またはそれに準ずる人として主な人をあげますと次のようになります。

- ◎ブラジル ヴァルター・ビニーラー博士
 - ◎ニージランド ヘンク・ヒンフェラー氏夫妻
 - ◎オランダ レイ・タクイラ女史
 - ◎インド S・K・マイトラ博士
 - ◎イタリア アルベルト・ペレゴ博士
 - ◎スイス ルウ・ツィンシターク女史
 - ◎イギリス J・レスリー・オトレイ氏
 - ◎ドイツ カール・ファイト氏
- これらの人々を自分で研究グループをもち、模範隊を率行したり、ニューズレターを交換し合ったりして、主としてアダムスキ研究を行なっている人です。他にもありますが、私が確実に連絡を保っているのは以上の協力者たちです。

